

こんにちは、考古学部です。私たちの部は67年の歴史をもち、数々の遺跡の発掘、発見で、全国に知られている伝統ある部活動です。

熊本県近代文化功労者の原口長之先生（熊本県立装飾古墳館初代館長）が1949年に創部され、卒業生には、蒲島郁夫熊本県知事（元東京大学大学院教授）、河村修元山鹿市長、隈昭志前肥後考古学会会長、富田紘一元熊本市立博物館長、浦田喜久子日本赤十字九州国際看護大学長、など、多くの人材を輩出した日本を代表する歴史系の部活動です。（最近では鶴嶋俊彦氏が『ブラタモリ』で熊本城の解説を行いました。）



考古学部 OB 蒲島郁夫熊本県知事

現在は、縄文・弥生・古墳時代や昭和の戦争について学習を深め、博物館・美術館を訪れたり、戦争体験の聞き取りなどをもとに、文化祭に合わせ『鹿高博物館』と銘打って展示を行ったりしています。

これまでに、激戦地硫黄島からの手紙、シベリアに抑留されていた星子敏雄元熊本市長・宮崎静夫画伯や南半球のブーゲンビル島の戦いについての展示をしました。戦地からの生還者に直接お話を聞き、戦地から熊本に届いた手紙を、御遺族に聞き取りをしながら読み解きました。新聞・テレビ、特に KKT ではテレビタミんやドキュメンタリー番組『現場発』などで大きく取り上げられました。多くの方の来場があり、今ではオーストラリア・京都・鹿児島などからもお出でいただくほどになりました。

先月11月18日には、熊本県文化財功労者表彰を熊本県庁で受けました。それは長年の文化財発掘調査や文化財パトロールをおこない、多くの人材を輩出したこと、近年の戦争体験の聞き取りと展示活動によるものです。蒲島県知事・五十旗頭真熊本県文化財保護協会会長が御臨席される中、宮尾千加子県教育長から渡された表彰状の重みを感じているところです。（高校の部活動が表彰されるのは初めてでおそらく最後になるといわれています。）

熊本県内唯一の本校考古学部は、高校在学中の奮闘だけではなく、卒業後の大きな可能性を秘めた部活動です。未来ある中学生のみなさん、一緒に夢を追いかけてみませんか。



テレビ取材風景



観覧者で溢れる鹿高博物館展示会場



熊本県文化財功労者表彰